

1 製品サイズに切り揃えられた原木はまず、大根の柱むきのように厚さ数ミリの単板に削られる 2 日新では、構造用合板はもちろんフローア合板や塗装型枠用合板などさまざまな種類を製造。そのサイズや厚みも多岐にわたる 3 「合板の利活用で耐震性を強化できる。地震国ニッポンではもっと活用してほしい」と話す佐藤副社長 4 木を効果的に活用した明るく開放的な本社事務所 5 今春、第三工場の裏に完成した自社パース

日新
株式会社

08
LEADING COMPANY

高品質な合板の開発・製造通じて「木」のある暮らしをサポート



全国6工場で多彩な合板製造 境港に自社専用パースも竣工

合板の国内シェア約30%を誇る「日新グループ」。その中で、合板の企画・製造・販売の中心的役割を担うのが「株式会社日新」だ。山陰で4工場を稼働するほか、三重や徳島にも自社工場を持ち、北関東から沖縄まで全国各地に合板を出荷している。各種加工技術で木材の欠点を克服した木材製品が、「エンジニアリングウッド」と呼ばれ、高く評価されているのをご存知だろうか。佐藤一郎副社長(62)は、「合板は、数あるエンジニアリングウッドの中でも生産性、使用効率性が非常に優れている。耐震性も高く、地震国ニッポン

においてはさらなる活用が期待されるアイテムなのです」と胸を張る。

6工場のうち、特徴的なのが境港市にある本社工場と、紀伊半島にある三重工場だ。合板と言えば、910ミリ×1800ミリに代表される規格品のイメージがあるかもしれない。しかし本社工場では、全国に4台しかない特殊ロータリーリースを持ち、最大1220ミリ×3030ミリまでの合板を製造。顧客ニーズに合わせた製品づくりに力を入れている。日新グループは国産材の活用を推進し、その割合は80%を占める。中でも三重工場では国産材100%を実現。グループの姿勢を象徴する工場となっている。

原料調達を基本的に各工場周辺で



行うが、不足分は東北や九州地方などから航路で納入。近年、境港の公共パースが混雑し、予定通り荷揚げできなかったり、原木置き場が狭くなったことなどから23年5月、第三工場裏の中海岸壁に500トン規模の船が着岸できる自社パースを竣工した。着岸から荷卸しまでの時間が約半分になり、生産効率性がより高まったという。

「家の主軸は、柱と梁。それらが骨だとなれば、合板は皮膚。住宅に欠かせないアイテムの一つです。しかし大工など職人の数が減少する中、骨のような役割を果たす新しい合板の研究も進めています」と佐藤副社長。業界をリードする日新に、今後

株式会社日新の働きやすさ



NS木質科学研究所
内田 大貴さん(26)
2020年入社

IT機器管理を通し、製品の品質向上を目指す

地元で、安心して長く働ける企業を探していた時に合板の国内シェア30%を誇る当社グループに出会いました。品質管理部門を経て、現在は社内各種機器管理を行うIT部門に所属。大型製造機械から水分量などの各種測定器、事務所のパソコンまで扱う機器は数多く、幅広い知識と技術の獲得に四苦八苦しています。現在は合板のトレーサビリティシステム導入に注力。自社製品の品質向上に役立てていきたいです。



NS木質科学研究所
岩坂 直樹さん(25)
2021年入社

二級建築士の資格を生かして新たな価値を

建築計画を学んでいた大学の課外授業で、原木を無駄なく使う当社の工場を見学。環境保全に注力する会社の姿勢に共鳴しました。品質管理に加え、より付加価値のある合板を目指し、研究開発にも挑んでいます。昨年度、社内ですべて二級建築士の資格を取得。建築関係の他企業に出向する予定もあり、学んできたことを合板にリンクさせたり、会社の事業の幅を広げたりすることに貢献できれば、と考えています。



本社工場総務部 主任
長尾 みづきさん(29)
2016年入社

同僚の働きやすい環境をサポート

本社工場に加え、山陰の他3工場や四国、三重工場で働く計約500人の給与計算や社会保険関係の手続きなどを担当しています。扶養や控除、各種休暇制度など専門的な業務が多い上、制度変更もあるので日々勉強が欠かせません。働く人を助ける各種手当などは本人の申請で受給できるものがほとんど。従業員一人一人の状況をできる限り把握して細やかに情報を伝え、大切な権利を守れるような存在でありたいです。



本社工場総務部
伊藤 月穂さん(24)
2020年入社

ミーティングでは若手も活発に意見

勤怠管理や人事補助、来客対応のほか、運搬されてきた原木の受付も担当。工場や工場など荷を降ろす場所が複数あるため、生産部の指示に従い、数量や置き場指定を間違えないよう気を遣っています。週に一度のグループミーティングでは、上司が若手の意見も積極的に聴いてくれるので、以前より自分の考えを表に出せるようになりました。総務の業務は幅広く、今後は経理や在庫管理システムにも挑戦したいです。



第三工場生産部1課
近藤 宜希さん(29)
2022年入社

合板製造をすべて学び、生産性向上を狙う

大学院では土壌微生物、中でも木材腐朽菌を研究し、毎日シャワーをのぞいていました。山陰では規模が大きく、多角的に事業展開している当社なら地元貢献できると入社したのですが、木に関わっていたのは縁でしょうか。生産部各課を回り、現場で実際の業務に就きながら、合板製造を学んでいる最中で、現在は原木切削機の刃物研磨作業を担当。将来は生産性向上や働き方改革などに関わっていきたいです。



第二工場生産部乾燥課
矢田 和真さん(22)
2020年入社

部活で鍛えた体力生かし、工場で奮闘

高校時代はソフトテニスに打ち込み、3年生の夏には全国大会にも出場しました。就職活動に出遅れて焦っていたら、先生が工場勤務を紹介してくれました。「部活で慣れているから暑い現場でも頑張れるだろう」って(笑)。確かに体力はありました。乾燥した単板を、合板の表裏用、中板用、芯に分ける調板工程を主に担当。機械が選別しにくい部分は、目視で不具合な板をはねます。スピードと正確さが大事です。



本社工場生産部1課 課長補佐
木山 純一さん(31)
2010年入社

切り出す単板のサイズは約100種類!

社歴は10年を超えましたが、ずっと切削を担当する生産1課です。今年から課長補佐になり、生産管理や品質管理、業務改善などのウエイトが大きくなりました。単板のサイズは約100種類。高品質な製品を効率よく上げるため、在庫を加味しながら原木を選んだり、段取りを考えたりしています。原木の価格交渉や市場の動き、乾燥、接着、選別などの業務も経験して知識を得て、今の仕事の精度をより高めたいです。



本社工場営業部
内藤 凜さん(23)
2023年入社

現場実習やチューター制度でスムーズに業務習得

全国各地の納入先を回るほか、出荷調整や運搬手配などを担う営業部に今年入社しました。現在は300種類に及ぶ自社製品の特長や出荷先などを把握できるよう研修中です。生産部各課を回る約4か月の現場実習で製造工程を学べる上、先輩が日誌交換などを通して細やかにフォローしてくれるので、業務の習得がスムーズで助かっています。視野を広げ、コミュニケーション力をもっと得られるように頑張りたいです。



第三工場生産2課 副班長
石倉 健也さん(27)
2019年入社

板の状態や天候などに応じてドライヤーを調整

単板の乾き具合は、板の厚みや季節、気象条件などによって微妙に変わるので、出来栄をチェックしながら、ドライヤーの温度、湿度、速度などを調整しています。昨年からは副班長になり、生産性向上もより意識するようになりました。食品会社から転職して5年目。給料が格段に増えたのも、モチベーションにつながっています。今夏のボーナスでは自宅の風呂をリフォーム。浴槽で足を伸ばせるようになりました。



第三工場生産部2課
長岡 叶子さん(24)
2022年入社

サービス業から、ものづくりの現場へ転身

父親の定年退職を機に、18年過ごした京都から両親の故郷、山陰に1ターンしました。飲食業を経て、ものづくりの現場へ。冷暖房完備の職場から来たので最初は暑さが堪えました(苦笑)。サービス業と違い、自分の作業が最終的に製品として残るのは達成感につながっています。単板を一枚ずつドライヤーに差す工程を担当。板が濡れたり、凍っていたりしてはがしにくいことも多く、丁寧な仕事を心がけています。



本社工場生産部2課
藤澤 秀斗さん(21)
2020年入社

リフレッシュできる環境で、集中力維持

工場勤務で一番大変なのはやっぱり暑さです。スポットクーラーや扇風機が整備されていますが、乾燥工程では単板を乾かすドライヤーや接着剤を溶かす熱気が容赦なく襲ってくるので水分補給は必須です。ただ、休憩スペースは常に冷房が効き、個室のような空間で横になれるので、再び集中力を持って作業できています。頑張りが給料に反映されるのもモチベーションに。今夏は東京や広島のライブに出かけ、満喫しました。



本社工場生産部2課
吉長 翔児さん(30)
2022年入社

岡山から家族でターン。新天地で充実の日々

石灰業が盛んな岡山県新見市に生まれ育ち、自身も地場産業に関わっていました。元々釣りや水辺のキャンプが好きで、特に境港の雰囲気は自分には合っていて、多い時は新見から境港まで毎週のように休日を過ごしに来ていたんです。娘が2人いるんですが、境港は子育て環境が整っている点も魅力的。妻も大賛成で移住を決めました。慣れ親しんだ製造業を探看中、当社に遭遇。アグレッシブな休日を満喫しています。



第二工場

切削工程を持たない第二工場。針葉樹構造用合板の12ミリ、24ミリ、3×6サイズ製造の主力工場。(松江市岡本町)



本社工場

長尺針葉樹合板の製造を主力とする日新の中核工場。2023年5月に建屋・機械設備ともに一新された日新グループ最新鋭の工場。(境港市西工業団地)



本社工場生産部工務課
山下 京介さん(23)
2022年入社

電気システム技術者として、エネルギー問題に取り組む

工業大学で電気システムを研究。友人からは電力会社などへの就職を決めていましたが、稀少性を生かせるのでは、と当社を選びました。社内の電気関係技術者は僕を含めて4人。工場機械の保全や電気設備の管理に加え、既存の機械に制御プログラムを加えて新機能を追加するなど専門性を生かした仕事を担っています。資格手当も充実しており、今後はエネルギー管理士を目指し、会社の省エネにも貢献したいです。



本社工場生産3課 副班長
川本 克己さん(27)
2015年入社

1時間に一度、テストピースで接着具合を確認

工場見学当時の接着工程は、5人1組による手作業で行われていたせいか、働く姿がとても楽しそうなのが印象的でした。今は機械で作業を行っていますが、人間の目による厳しいチェックが欠かせません。暑い時には接着剤が乾きやすいなど、マニュアル通りにいかないのが大変。1時間に一度はテストピースで量を加減し、不具合がないよう努めています。副班長として現場の安全管理にも注力しています。

株式会社 日新

株式会社 日新

事業内容

合板の製造・販売事業

創業 平成10(1998)年9月24日

代表者 代表取締役 又賀 航一

社員数 523名(男492名 女31名)

本社 鳥取県境港市西工業団地100

電話 0859-47-0303

採用エリア(勤務地)

境港市、松江市

採用担当者からあなたへ

福利厚生や社内制度の見直し等、積極的に「働きやすい職場」づくりを進めています。熱意があれば経験や技能は問いません。素直に頑張れる方をお待ちしています。私たちと一緒に日新を盛り上げていきましょう!



人事部 部長 山根 正広さん

資料請求・お問い合わせ先

採用直通 TEL

0859-47-0303

採用直通 E-mail

k.moriguchi@nisshin.gr.jp

公式サイトはこちら



動画サイトはこちら



1 軽食やドリンクの販売機も備えられた冷暖房完備の休憩所 2 グループで合板の国内シェア30%を占める日新。循環型林業の一端を担う社員の表情には、社業に対する誇りが感じられる 3 半個室に仕切られているため、人の目を気にせずリラックスできる快適な休憩スペース

働きやすさも配慮しつつ 高品質な合板を安定製造

西日本で業界最大シェアを誇るには理由がある。その一つが、製造工程をリアルタイムで数値管理していることだ。目標の生産量や歩留まりなどに対する達成値がすぐに可視化されるため、結果へのアプローチも即座に行え、生産効率に対する社員の意識も向上。「極端に数字が低い時は機器のトラブルが影響している可能性もあります。即対応のメリットが大きい」と佐藤副社長。もちろん数字だけを追い掛けるのではない。製造現場では、旧来型の「背中を見て学べ」ではなく一定程度のマニュアル化と従業員のマルチスキル化を推進し、組織の柔軟性を向上させている。昨年からの人事評価制度を

見直し、社員の実績や貢献度を規定項目について評価する考課者の教育にも注力している。

従業員の意見を取り入れた福利厚生も、社内から評価が高い。古くからの各工場の休憩室のリニューアルを進め、今夏には作業服も新調。機能性とファッション性を両立させたものになった。

働くモチベーションは、給料や評価、休暇など人によって違う。しかし良い製品を生み出そうとする想いは、仕事や会社を持つ誇りが大きなウエイトを占めるのかもしれない。当社は業界で唯一、JASシステムA認定工場として、高品質な合板を安定的に製造。トレーサビリティシステムや新製品開発にも力を入れる。自社プラットフォームへの自信は、働く人を輝かせる。

株式会社日新の働きやすさ



第三工場生産部4課 原 颯希さん(21) 2022年入社

接着、切断後の出来栄を一枚一枚チェック

職場見学の時、木材工場のイメージで覆されるくらい現場がきれい。原木を無駄なく使う会社の姿勢にも惹かれ、入社を決めました。接着を終え、規格に応じて切断された合板の出来栄をチェックする業務を担当。レーンに流れている状態のまま一枚一枚、割れや欠け、節などがなければ確認するので、目と神経は遣いますね(苦笑)。機械や合板の知識をより身に付け、迅速にトラブル対応できるようになりたいです。



第三工場生産部2課 係長 小川 知訓さん(34) 2012年入社

係長拜命を機に パソコンのスキルアップも

グループ会社を含め、合板製造で乾燥工程に携わって約15年。今春から係長を拝命し、データ収集・管理や若手教育なども担っています。週に一度の工場全体会議など、人前で話す機会が増えました。苦手でしたが、自分を鼓舞して分かりやすく伝えるよう努めています。事務作業が増えたため、現場での効率的な業務に加え、得意ではないパソコンのスキルアップにも挑戦しています。目標達成は大変ですが日々成長です。



湖北工場生産部1課 有澤 美悠さん(20) 2023年入社

憧れの先輩たちをお手本に、早く一人前に

「山陰の会社としては規模が大きく、給料もいい。各種免許も取得できる」と、鉄工所を営む父親に勧められ、入社しました。入社直後にフォークリフト免許を取得、業務の幅が広がりそうなので、玉掛けやホイストクレーンの資格にも挑戦するつもりです。先輩方は、機械の音で異常に気付いたり、細部にまで注意を払ってトラブル回避したりしつつ、私の安全にも十二分に配慮してくれます。早く一人前になりたいです。



第三工場生産部 呉屋 ラファエルさん(31) 2023年入社

コミュニケーションの力で、皆が働きやすい職場に

愛知県生まれの日系ブラジル人です。5歳からブラジルで暮らし、2015年に再び日本に戻った時は全く日本語が話せませんでした。派遣社員として各社で働きつつ、独学で日本語を勉強。派遣を経て当社の正社員になり、ブラジル人派遣社員の通訳を行うほか、彼らの指導もできるよう各課での業務も勉強中です。よりコミュニケーション力を磨いて人と人をつなげ、皆が気持ちよく仕事できる環境を作っていきたいです。



湖北工場生産部3課 課長 船津 啓助さん(39) 2005年入社

自分のライフスタイルも大事にできる職場

農林高校時代に林業を学んだのを機に、県立農業大学校へ。間伐材の伐採実習で加工に関心が生まれ、同級生の多くが森林組合への就職を決める中、一人だけ合板製造の道を選びました。山で働くのと違い、自宅から通えるなどライフスタイル的にも自分には工場勤務が合っていました。今春から課長に。生産効率アップを目指しつつも、職場の雰囲気や人間関係も意識して、若手が仕事しやすいよう努めています。



湖北工場生産部1課 係長 森 巡真さん(31) 2010年入社

一日に6000本の原木を切削加工

一日に加工する原木は6000本。切削機の刃物が摩耗してくると単板の仕上がりが悪くなるので、2時間半ごとに刃先を替えたり、板の表面を確認したりして、品質を管理しています。最初の工程である切削でミスがあると、乾燥させた時に戻ったり、「コシ」がなくなったりすることも。後工程で扱いやすいよう意識しています。最近では、メーカー並みの難しい機械整備にも挑戦しています。よりできることを増やしていきたいです。



湖北工場

松江市の意宇川沿いに建つ湖北工場。フロア一台板製造を主力とする工場。(松江市富士見町)



第三工場

境港の本社工場の近くに建つ第三工場。山陰各工場への単板供給を主力としている。(境港市西工業団地)